

事業計画書

事業名	我入道なかにわマルシェ～コミュニティナースと育む未来の居場所～
実施場所	沼津市我入道地区 市所有の旧学校施設中庭（予定）
実施予定期間	<p>※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載してください。</p> <p>令和7年10月1日～令和8年3月31日（準備期間含む）</p>

◎事業概要

※事業の概要を100～200字で簡潔に記載してください（事業の紹介などで使用します）。

我入道地域にある市所有の旧学校施設中庭を活用し、地域住民・団体・企業が出店・出展する「マルシェ形式」のイベントを開催します。昨年度実施した「我入道文化祭」の発展版として、交流・発表・販売・相談が交差する場をつくり、将来の常設コミュニティ拠点設立に向けた第一歩とします。コミュニティナースが対話のつなぎ手として機能し、地域の健康とにぎわいを支えます。今回は11月にプレマルシェを開催し、2月に本番イベントを実施します。

◎目的

※事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）と、その解決のために何をするのかを記載してください。

本事業は、地域の高齢化や空き家の増加、地域行事や日常的な交流機会の減少といった社会背景を受けて実施するものです。我入道地域では少子高齢化等により、住民同士のつながりや交流機会が希薄化しています。これに対し、地域住民の主体的な関与と市有資源の利活用による活性化が求められています。本事業は、昨年度の我入道地域活性化事業による我入道マップの作製および「我入道文化祭」の成功を土台に、未活用の旧学校施設中庭でマルシェを開催し、住民・企業・団体の協働を促進します。

将来的には地域内にある公共施設等を活用した常設型の拠点整備を1つの理想として描きつつ、当面の実施目標としては、定期的なマルシェイベントの開催を通じて地域に交流と活動の土壤を育むことを重視します。

本事業を通じて、地域課題の解決に向けた小さな活動の積み重ねと関係性づくりを継続し、多様な人々が関わる仕組みを地域に根づかせていきます。

また、令和6年度8月以降には東都大学の高齢者看護の実習を受け入れる予定があり、本事業においても若い世代との協創のきっかけとなる可能性があります。副次的な効果として、看護学生が地域活動に触れることにより、世代を越えた交流の促進や新しい視点の導入が期待されます。

◎実施内容

日程	実施項目・作業項目
	<p>※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容（打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会）、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載してください。</p> <p>※ハード部門については、12月31日までに施設整備を終え、その後は施設を活用する計画としてください。</p>

10月	実行委員会設立、出店者募集、企画ミーティング（地域住民・店舗・企業・福祉関係者）、告知（チラシ制作、SNS、市広報）
11月	プレマルシェ開催①、本番に向けた出展調整・プログラム検討、ワークショップ・ステージ調整、市有地使用届出
2月中旬	本番イベント開催「なかにわマルシェ」：飲食・物販・演奏・展示・子ども体験・高齢者相談・井戸端席などを実施
3月	ふりかえり会（参加者・住民）、アンケート回収、協賛企業との対話、次年度構想の共有、最終報告書作成と提出準備

◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載してください。

- 地域住民の多世代交流の促進（来場 300 人以上を想定）
- 市有資源（旧学校施設中庭）の活用可能性を示すことで、将来の拠点整備の合意形成を促進
- 出店・協力者との継続関係構築（10 団体以上）
- 見守りや孤立防止に向けたコミュニティナースの対話機会創出
- 将来的な協賛・寄付・共創モデルの土台づくり

成果指標	※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定してください。 来場者数 300 人以上 出店・出展 10 団体以上 地域との対話件数 20 件以上 協賛・支援関係 5 件以上	指標の検証方法	※左記指標の検証方法を記載してください。
			来場者カウント・アンケート
			申込書・実施記録
			活動記録
			協賛一覧・次年度意向調査

◎評価の視点に合致していることの説明

※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

社会的必要性	※まちの活性化や魅力づくりのために有益であり、不特定多数の利益につながる質の高い事業であるか。我入道地域では高齢化や空き家の増加により、住民同士の交流や支え合いが減少しています。こうした中、マルシェは「にぎわい」と「見守り」を両立できる開かれた場として機能します。コミュニティナースが対話や相談を通じて地域の安心づくりを担い、住民の主体的な参加を促します。また、東都大学の看護実習受け入れも予定されており、若い世代との接点や世代間交流の契機にもなります。
地域性	※地域課題の解決や地域資源の活用につながり、地域住民を巻き込めるか。活用する旧学校施設は地域にとってなじみの深い場所でありながら、現在は未活用状態です。地域住民・自治会・企業・社会福祉協議会等との協力体制のもと、実行委員会形式で企画から運営までを進め、地域資源を最大限活用したまちづくりの取り組みとしています。また、地域内での連携強化を目的に、町内会や近隣学校・店舗とも継続的に関係性を築いています。

独創性	<p>※申請者ならではの着眼点や個性が見られ、新規性、チャレンジ性があるか。</p> <p>本事業では「コミュニティナース」が、地域の“対話の媒介者”として機能します。健康や生活課題への気づきと支援を、交流の中で自然に行う設計は全国的にも先進的な試みです。また、エリアマップ制作や文化祭など過年度の活動から発展し、マルシェというオープンな形で展開することによって、地域住民の主体性をより引き出す構造としています。</p>
実現性	<p>※資金やスケジュール、法令順守、関係者との調整に問題がなく、予算や効果が適正であるか。</p> <p>昨年度までに培った実績と地域内での関係性を土台に、すでに開催候補地の使用相談を進めています。資金計画はマチカツ補助金と自主財源、協賛などを組み合わせて構築し、広報・設営・記録まで具体的な運営体制を想定しています。また、小規模から始めて段階的に展開する方式により、リスクを抑えつつ持続的な活動が可能です。</p>
発展性	<p>※事業の波及効果が見込まれ、意欲をもって主体的かつ継続的な活動ができ、資金確保への取り組みも十分か。</p> <p>単発のイベントではなく、11月・2月と複数回の開催を通じて、地域住民の関与を段階的に広げていきます。今後は年間複数回の定期開催を目指し、地域の「恒例行事」となることで、地域に根づいた自立的な場づくりを推進します。最終的には市内の空き公共施設を活用した常設拠点の整備を理想像とし、マルシェを通じた協賛企業や共同事業体の形成も見据えています。</p>

◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載してください（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

今後は定期的なマルシェイベントを継続し、交流の習慣化や地域の主体的な関与を深めていきます。その過程で得た関係性や資源を基盤として、地域の公共施設等を活用した常設型の多世代交流・相談・活動拠点の整備も検討していきます。コミュニティナースが常駐し、企業協賛や市民参加型運営モデルの構築を通じて、持続可能な地域のつながりづくりを推進していきます。

◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載してください。

昨年度の我入道マップ作りの一環として実施した「我入道文化祭」は延べ300人以上が来場し、世代や立場を超えた交流の場として大きな成果がありました。自治会や社会福祉協議会とも連携し、実行委員形式で住民主体の準備が進められたことも重要な実績です。一方、毎週のスペース開放や定例イベントへの参加者は限られ、日常的な場づくりや関与の継続には課題が残りました。こうした反省を踏まえ、今年度は段階的に関与を広げるプレマルシェを重ねる構成とし、地域住民が“関わりやすい”“参加しやすい”機会を増やします。将来的には、こうした積み重ねが常設拠点整備にもつながるよう、協力団体や住民との関係構築をより丁寧に進めていきます。